



ネットボランチで



VPN

Virtual Private Network

いま注目のVPNを 完全攻略

VPNで何が出来る?/なぜ今VPN?
VPNを利用するには?

サイトもあわせてご覧ください
ヤマハネットボランチホームページ
<http://netvolante.jp>



◎ ヤマハルーターはネットボランチルーター以外にもVPN (PPTP) 機能をサポートしております。
詳しくはURL-<http://www.rtpro.yamaha.co.jp>をご参照下さい。

<p>■ ヤマハルーターお客様相談センター RTXシリーズとRTシリーズについてのお問い合わせ先</p> <p>■ ヤマハルーターホームページではメールによるお問い合わせをお受けています。 info@rtpro.yamaha.co.jp</p> <p>■ お電話によるお問い合わせ先 ■ FAXによるお問い合わせ先 ☎053-478-2806 ☎053-460-3489</p> <p>ご相談受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00 (土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます。)</p>	<p>■ ネットボランチコールセンター ネットボランチシリーズ商品についてのお問い合わせ先</p> <p>■ ヤマハ・ネットボランチホームページではメールによるお問い合わせをお受けています。 support@netvolante.jp</p> <p>■ ネットボランチコールセンター ☎03-5715-0350 ■ ネットボランチインターネット電話 ##6259-4341 (お問い合わせ先)</p> <p>ご相談受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00 (日・祝日、年末年始は休業とさせていただきます。)</p>
--	---

インターネット電話接続確認用 ##2157-4061 (確認用アンサーホン)

※ 本文中の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。



VPN接続の特長

VPNを接続してみよう
LAN間接続VPN/リモートアクセスVPN

ファイアウォール機能 満載でセキュリティも万全



製造元
ヤマハ株式会社

AV・IT事業本部 国内営業部 〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
2003年4月作成

カタログコード MRTVPN001

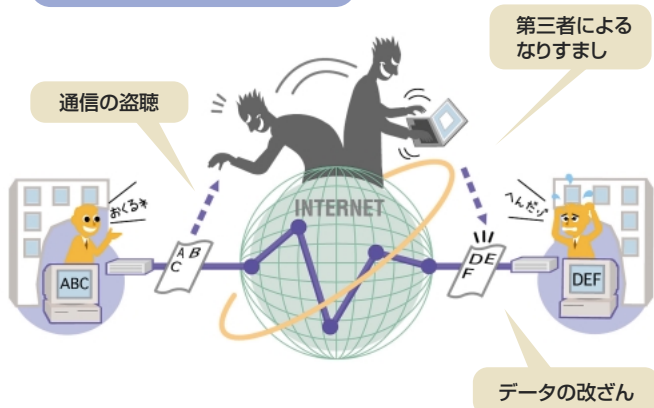
VPN Step:1

って何ができるの？

従来の専用線に代わり低コストなインターネット接続環境を利用して、重要なデータを安全にやり取りすることができます。

VPN (Virtual Private Network) とは、インターネットを利用して企業の拠点間を専用線のように相互接続し、セキュリティを高めた通信を可能にする技術です。現在ご利用のインターネット接続環境に、VPN機能を備えたヤマハネットボランチャルーター^(※1)を設置することで、簡単にVPN通信^(※2)を利用できます。

VPNを使用していない場合

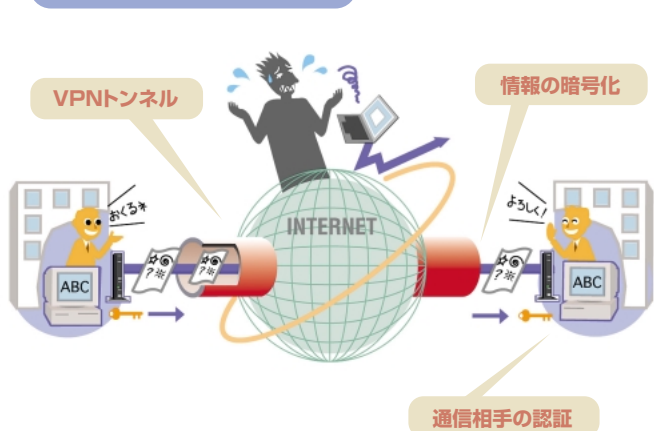


VPN ワンポイント

① セキュリティ問題の重要性

現在のインターネット接続環境では、低額で高速なブロードバンド回線による常時接続が利用できます。企業でもこの接続環境を利用して、通信コストを下げることが急速に進んでいます。しかし、インターネット上には盗聴、改ざん、なりすまし等の脅威が存在し、業務データの通信を行うにはセキュリティに十分な配慮を行う必要があります。

VPNを使用した場合



VPN ワンポイント

② VPN技術解説

VPN技術は暗号化とトンネリングの2つの技術からなります。「暗号化」はデータの盗聴や改ざんなどを防止するためにデータを複雑に攪拌(かくはん)する技術です。「トンネリング」は端末間のすべての通信を束ねてルーター間の通信に見せかける技術です。トンネリングを使うと、すべての通信をルーターが集約して暗号化できるので、端末が個別に暗号化する必要がなくなります。

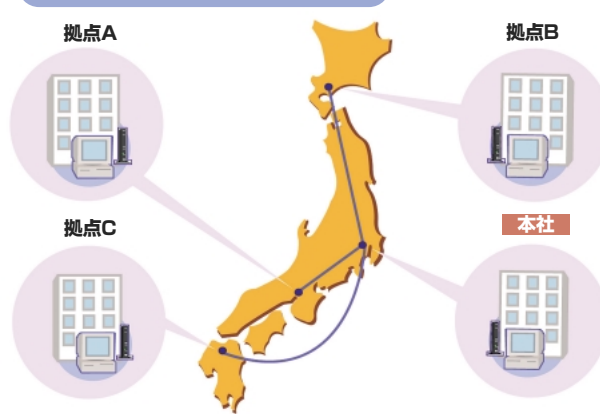
※1 ヤマハルーターにはネットボランチャルーター以外にもVPN通信が利用可能な機種がありますが、ここではネットボランチャルーターを前提に説明いたします。
 ※2 VPN通信を行うにはPPTPを利用する場合とIPsecを利用する場合があります。ネットボランチャルーターはPPTPに対応しています。

なぜ今VPNなの？ Step:2

低額で高速なブロードバンド回線によるインターネット接続環境の急速な伸張。動作安定性に優れた信頼性の高いネットボランチャルーターが本格的なVPN機能を装備。これにより、ブロードバンド回線によるインターネット経由でも企業間通信を安全に実現することができました。

従来は業務データを拠点間でやり取りする場合、専用線を利用して行っておりました。しかし専用線は、接続距離に依存した料金体系のため、遠距離拠点との通信コストが非常に高額でした。

従来の専用線によるネットワーク



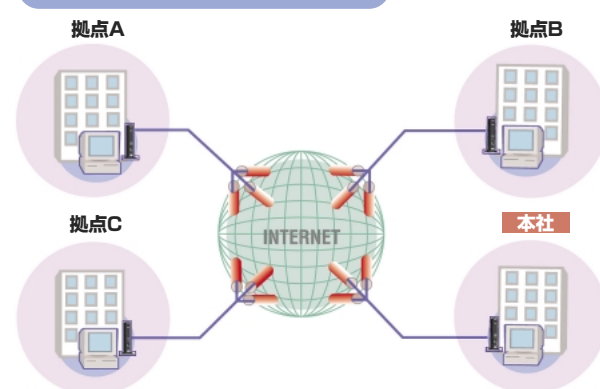
VPN ワンポイント

③ 専用線接続とブロードバンドインターネット接続比較^(※3)

■ ADSLインターネット接続		
費用(月額)	提供速度	距離(拠点間)
4,000円程度	1.5・8・12Mbps	依存性なし

■ 専用線(東京↔大阪間約400kmの例)	
費用(月額)	サービス品目
100,000円程度	64kbps
180,000円程度	128kbps
1,300,000円程度	1.5Mbps

VPNによるネットワーク^(※4)



VPN ワンポイント

④ 拠点増減時のネットワーク利便性の違い

専用線接続は拠点が増えた時など、その設置には回線の敷設などの追加の煩わしさが発生しますが、インターネット接続では、これらの手間がいらす、既存のネットワーク環境がそのまま利用できます。

※3 ADSLの提供速度は理論値であり、保証されていません。またADSLインターネット、専用線の費用は、契約会社、契約内容によって異なります。
 ※4 ADSL環境でVPNを利用する場合は、上り帯域での実効値がVPNの最大速度となります。(下記参照)

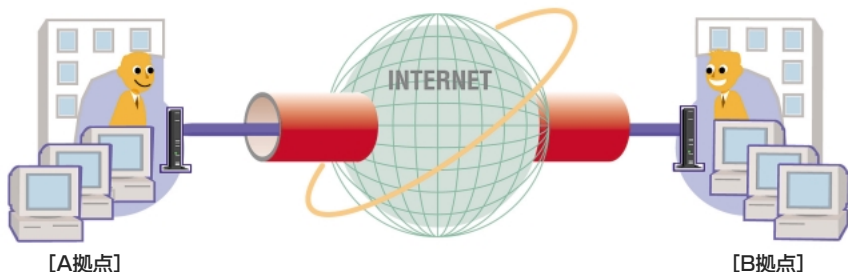
	1.5M ADSL	8M ADSL	12M ADSL
下り帯域	最大1.5Mbps	最大8Mbps	最大12Mbps
上り帯域	最大512Kbps	最大1Mbps	最大1Mbps
VPN帯域	最大512Kbps	最大1Mbps	最大1Mbps

VPNを利用するには?

Step:3

VPN接続には、LAN間接続VPNとリモートアクセスVPNの2つの利用形態があります。

LAN間接続VPN

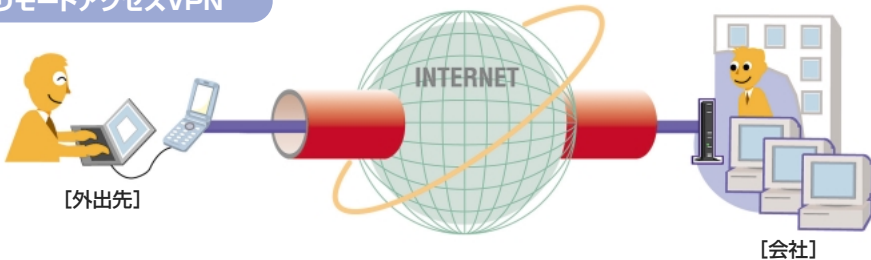


VPN ワンポイント

⑤ LAN間接続VPNとは?

企業の各拠点のLANを接続します。ヤマハネットボランチルーターの対地数（接続先拠点数）は最大4拠点となります。

リモートアクセスVPN



VPN ワンポイント

⑥ リモートアクセスVPNとは?

外出先のパソコンからインターネットを経由して、会社内のLANにアクセスする場合の接続方法です。

インターネット接続環境とVPN (PPTP) に対応したヤマハネットボランチルーターを準備することにより簡単に利用可能です。業務用途に利用するにはVPN機能として以下の機能を装備していることが重要です。

- ① ネットボランチDNSサービス
- ② PPTPサーバ/クライアント/パススルー機能
- ③ 暗号化機能 (RSA社ライセンスソフト実装)

下記のプライベートアドレスを使用しているインターネット接続では、使用できません。
「10.X.X.X」「172.18.X.X」「192.168.X.X」

4 VPNを利用するには?

ネットボランチルーターで行う

Step:4

VPN接続の特長① ネットボランチDNSサービスの提供

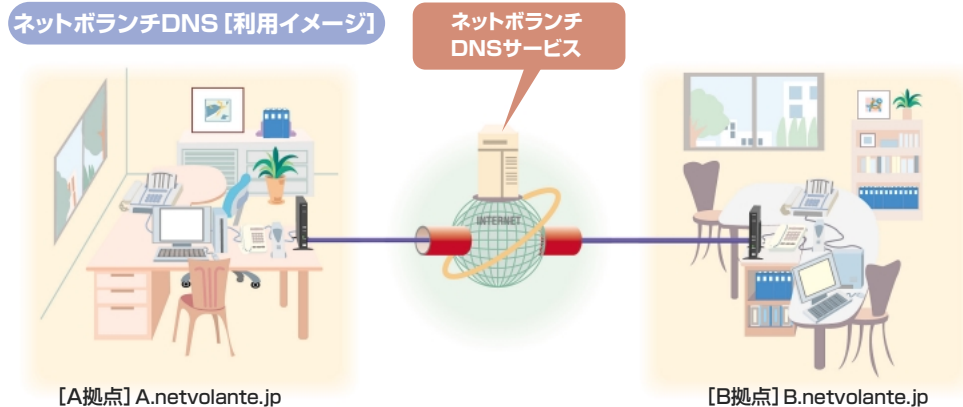
従来VPN (PPTP) 通信をするには、高額な固定IPアドレスを必要としましたが、ヤマハでは、ネットボランチDNSサービスを提供することでリーズナブルな不定IPアドレスを利用したVPN (PPTP) 通信を実現しました。

ネットボランチDNSサービスのしくみ

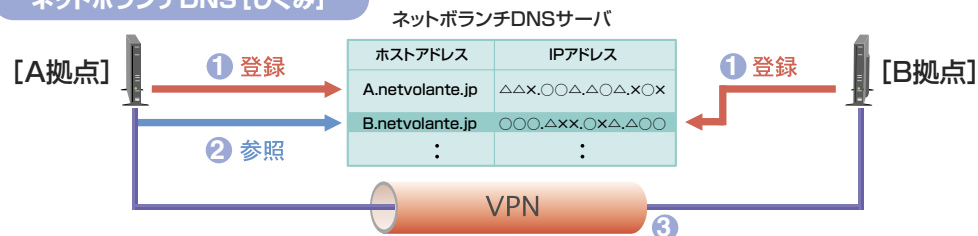
VPN (PPTP) 通信には、必ずグローバルアドレスが付与されるプロバイダ契約が必要になりますが、ヤマハではネットボランチDNSサービスと呼ぶ動的DNS機能を当社自ら運営して無償提供しています。このサービスがあることにより、プロバイダから割り当てられたIPアドレスが変わったとしても、その都度このままIPアドレスの対応表を更新することで、ホストアドレスによるアクセスが可能になります。したがって、プロバイダとのインターネット接続契約において固定IPアドレスを付与されない低額な契約でも、VPN (PPTP) 通信が行えるようになります。

もちろん、ネットボランチDNSサービスを利用しない固定IPアドレスでのVPN (PPTP) 通信も可能です。

ネットボランチDNS [利用イメージ]



ネットボランチDNS [しくみ]



- ① ホストアドレスとIPアドレスを登録する。
- ② 接続した相手のホストアドレスからIPアドレスを参照する。
- ③ VPNを接続する。

ネットボランチDNSサービスに登録すると、ネットボランチルーターから報告される最新のIPアドレスを元に、ネットボランチDNSサーバはIPアドレスが変わるごとに、アドレス対応表を更新します。

VPN ワンポイント

⑦ コスト比較 (固定 vs 不定)

固定IPアドレス接続費 (月額)	不定IPアドレス接続費 (月額)
8,000円程度	4,000円程度

※費用は契約会社・契約内容によって異なります。

VPN接続の特長1 5

VPN接続の特長②

PPTPサーバ/クライアント/パススルー機能

ヤマハネットボランルーターはPPTPサーバ/クライアント/パススルー機能を搭載しているため、以下のことが全て実現可能です。

LANにつながるTCP/IP対応機器が簡単に全て利用可能

ヤマハネットボランルーターは利用するパソコンのOS（オペレーティングシステム、Windows XP等）に依存することなく利用可能です。パソコン以外のネットワーク対応カメラ等もVPN（PPTP）通信が可能です。ネットワークに様々な機器が接続される今後を見据え、機器を選ぶことなく全てのTCP/IP対応機器が簡単に利用できることは企業用途においては必須の条件です。

複数拠点間の相互接続（メッシュ）が利用可能

複数の拠点間でのメッシュ型接続が可能なヤマハネットボ

ランルーターは、本社一支部A、本社一支部B等といった本社相手の通信以外に、支店A一支部Bといった拠点間の通信も可能です。情報の迅速な共有化が必要な時代にあっては必須の機能です。

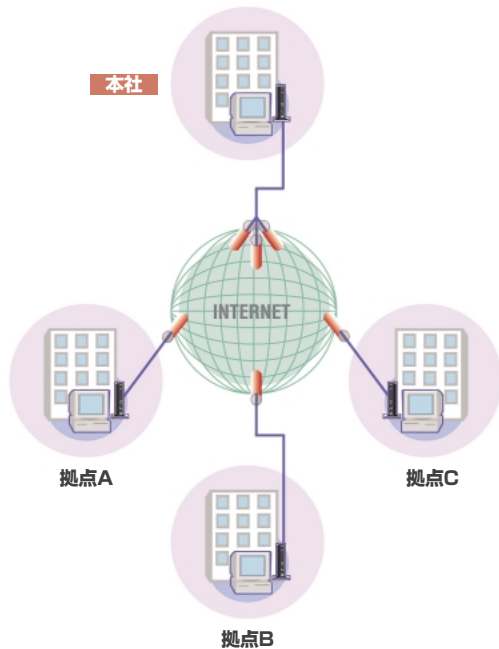
LANにつながっているパソコン等の機器が相互にVPN（PPTP）通信が可能

特定のサーバマシンだけにVPN（PPTP）接続するのではなく各々のパソコン等と通信ができることで、業務効率アップ、多様な情報交換が可能になり、情報化社会の企業運営を円滑なものにします。

VPN通信網のタイプ

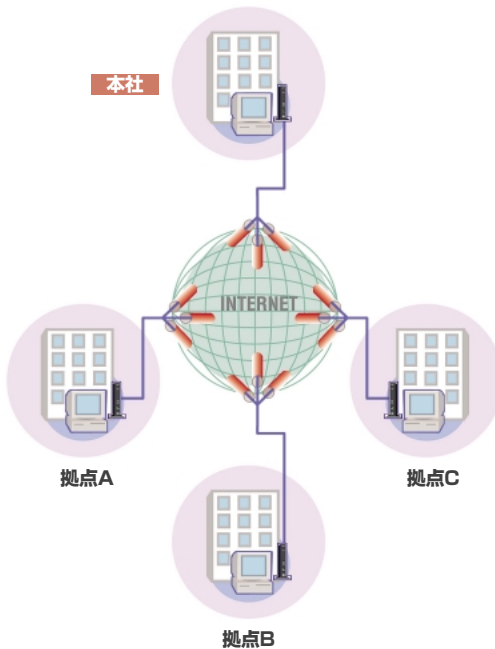
■ スター型ネットワーク

各拠点は1対1でしか通信できません。



■ メッシュ型ネットワーク

全ての拠点が1対多数で通信できます。



◎ヤマハネットボランルーターはどちらのネットワーク型にも対応しております。

VPN接続の特長③

暗号化機能・認証機能

ヤマハネットボランルーターは、PPTPの標準的な仕様であるWindowsとの相互接続性を重視しており、以下の機能を搭載しております。

① 暗号化機能

ヤマハネットボランルーターは大事なデータを悪意のある第三者の盗聴行為から守る為にRSA社^(※5)からRC4^(※6)という暗号アルゴリズムの正規ライセンス供与を受けております。暗号に用いられる鍵長は、40ビットキーと128ビットキーをサポートしており、安全性を求める場合には、128ビットキーが利用されます。

② 認証機能

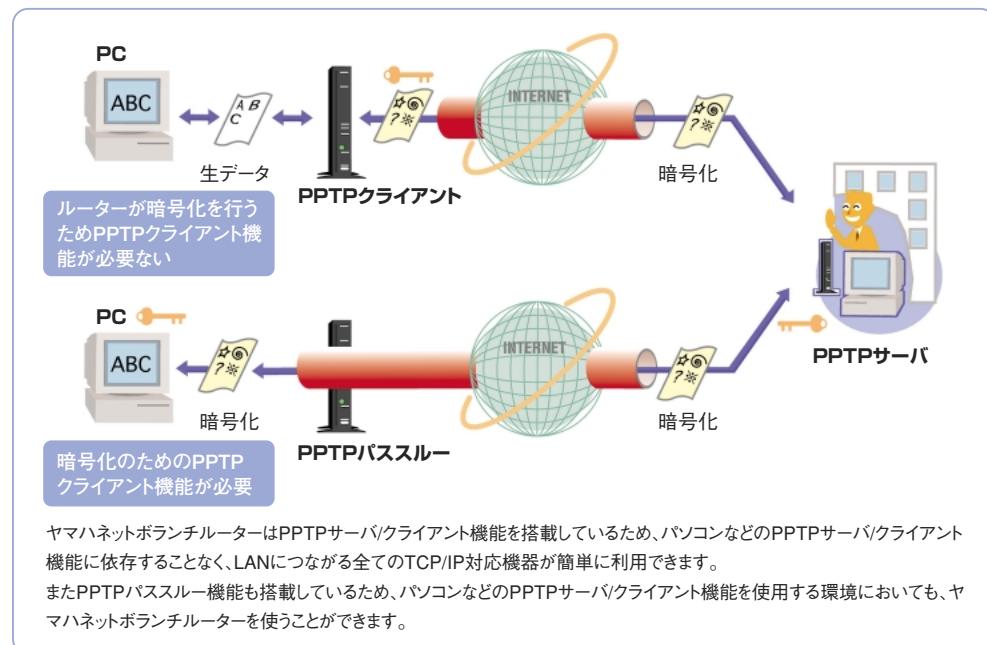
ヤマハネットボランルーターのPPTPでは、接続の認証とデータ暗号化のためのキーを生成するためにMS-CHAPv1またはMS-CHAPv2をサポートしています。MS-CHAPv1は、CHAPに似ていますが、CHAPより安全です。MS-CHAPv2は、MS-CHAPv1よりさらに安全性が高められています。

※5 RSAはRSA Security Inc.の登録商標です。BSAFEはRSA Security Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。RSA Security Inc. All rights reserved.

※6 外出先や自宅からVPNとして会社等のネットワークに手軽かつ安全にアクセスすることができます。Windows環境で長年採用されているRSAセキュリティ社の暗号機能「RC4」を使用することで、安全かつ相互接続性の高いリモートアクセスVPNを実現します。本製品は、RSA Security Inc.のRSA ©BSAFE™ Crypto-c Micro Editionソフトウェアを搭載しております。



VPN ワンポイント ⑧ PPTPサーバ/クライアント機能とPPTPパススルー機能の違い



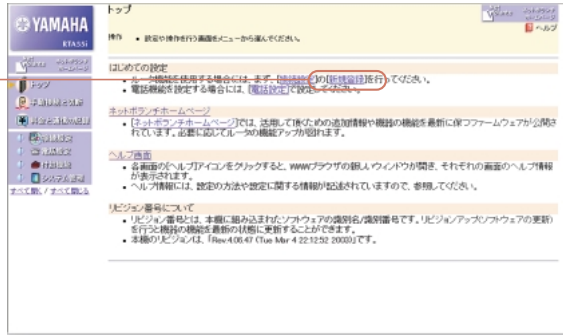
VPN接続してみよう

LAN間接続VPN編

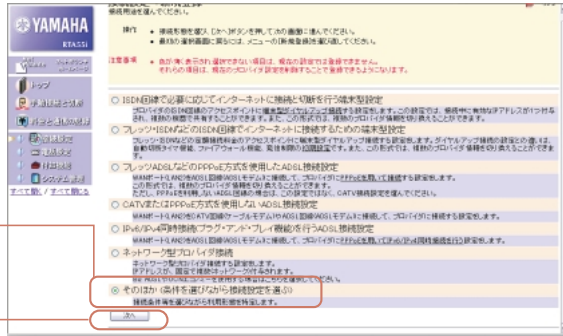
VPN接続にはLAN間接続VPNとリモートアクセスVPNがあることを前述しましたが、ここではLAN間接続VPN設定方法を説明します。リモートアクセスVPNはP10・11をご覧ください。なおこれらのVPN接続を設定する前に、インターネットに接続するためのプロバイダ接続の設定が必要です。

1. VPNの接続形態を選ぶ

① [新規登録] をクリック。

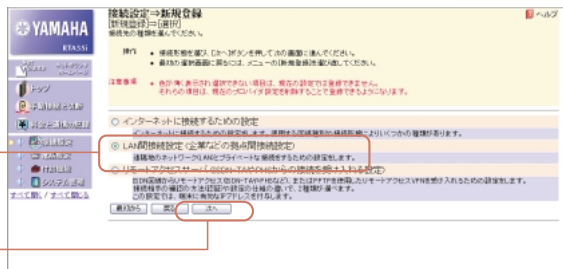


② [そのほか] を選択。



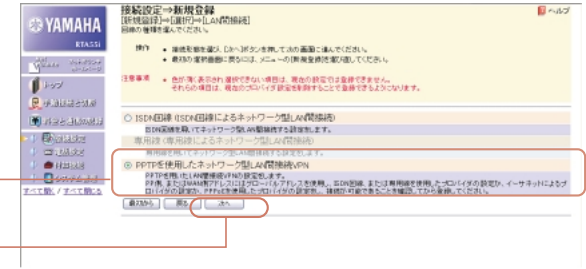
③ [次へ] をクリック。

④ [LAN間接続設定] を選択。



⑤ [次へ] をクリック。

⑥ [PPTPを使用したネットワーク型LAN間接続VPN] を選択。



⑦ [次へ] をクリック。

2. 必要な設定を入力する。

① 接続先のIPアドレスを入力する。

② サーバとクライアントを選択。

③ 設定名を入力する。

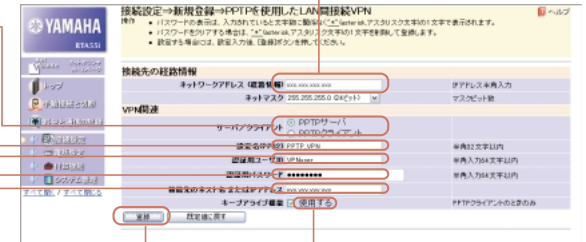
④ ユーザIDを入力する。

⑤ パスワードを入力する。

⑥ 接続する相手先機器のホストアドレスまたはIPアドレスを入力する。

⑦ 相手から応答がなくなったら自分から切断するように設定するときは、チェックを付ける。

⑧ [登録] をクリック。



ネットボランチDNSサービスに登録する

固定グローバルアドレスを持っていない場合は、ネットボランチDNSサービスを利用して、使用できるホストアドレスを取得します。

① [接続設定] の [プロバイダ接続管理] をクリックする。

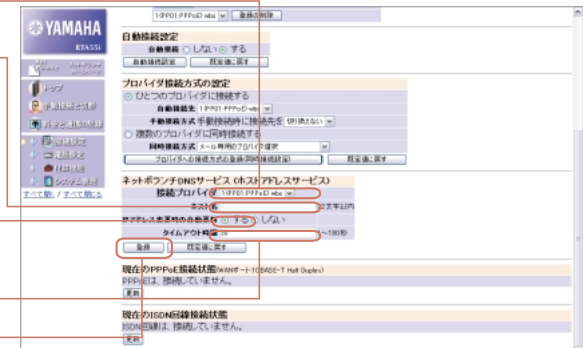
② [接続プロバイダ] を選択。

③ 希望するホストアドレスを入力する。
(注意) 希望のホストアドレスが取得できないことがあります。

④ グローバルIPアドレスが変わった場合に自動的にネットボランチDNSサーバにIPアドレス変更情報を通知したいときは、[する] を選択。

⑤ ネットボランチDNSサービスのタイムアウト時間を秒で指定する。

⑥ [登録] をクリック。



VPN接続してみよう

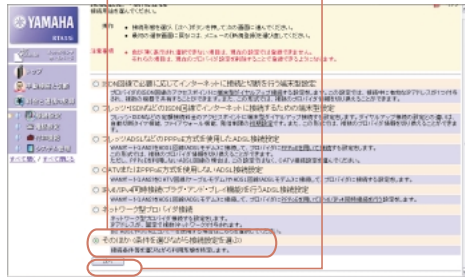
リモートアクセスVPN編

ここではリモートアクセスVPN設定方法を説明します。

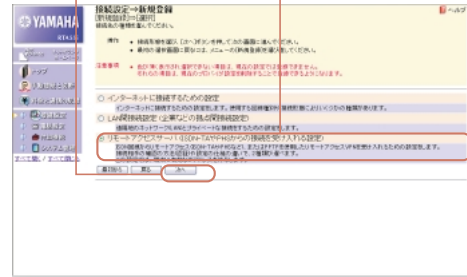
VPN接続を設定する前に、インターネットに接続するためのプロバイダ接続の設定が必要です。

1. VPNの接続形態を選ぶ

- 1 [接続設定]の[新規登録]をクリック。
- 2 [そのほか]を選択。
- 3 [次へ]をクリック。



- 4 [リモートアクセスサーバ]を選択。
- 5 [次へ]をクリック。

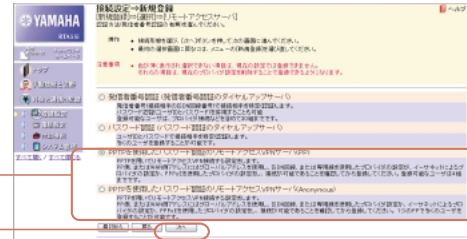


- 6 [PPTPを使用したパスワード認証のリモートアクセスVPNサーバ]を選択

[PP]
指定されたホストアドレスまたはIPアドレスのみを接続可能な接続先として、ユーザIDとパスワードで認証を行います。

[Anonymous]
接続先の制限は行わずに、ユーザIDとパスワードで認証を行います。

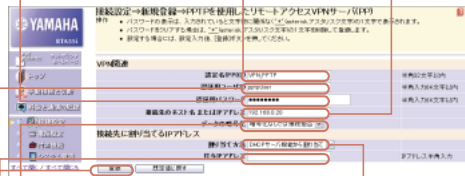
- 7 [次へ]をクリック。



2. 必要な設定を入力する

[PP]を選んだ場合

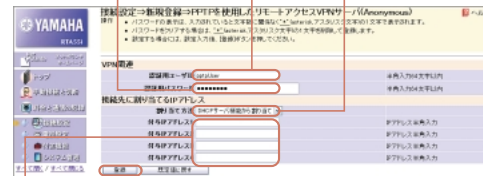
- 1 設定名を入力する。
- 2 ユーザIDを入力する。
- 3 パスワードを入力する。
- 4 接続するクライアントPCのIPアドレスまたはホストアドレスを入力する。



- 5 [データの暗号化]を選択。
- 6 [割り当て方法]を選択。
- 7 [割り当て方法]で[固定割り当て]を選択した場合にアドレスを入力する
- 8 [登録]をクリック。

[Anonymous]を選んだ場合

- 1 ユーザIDを入力する。
- 2 パスワードを入力する。
- 3 [割り当て方法]を選択。

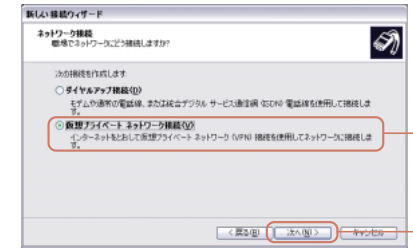
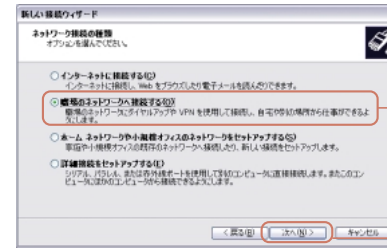


- 4 [割り当て方法]で[固定割り当て]を選択した場合にアドレスを入力する。
- 5 [登録]をクリック。

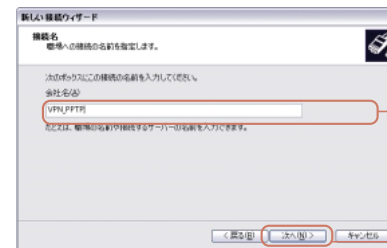
リモートアクセスするパソコンの設定をする

Windows XPでの設定を例に説明します。詳しくはネットボランチルーターに付属の[新機能ガイド]をご覧ください。

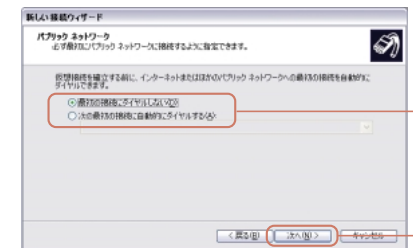
- 1 [コントロールパネル]の[ネットワーク接続]を開く。
- 2 [新しい接続を作成する]をクリック。
- 3 [新しい接続ウィザードの開始]が表示され[次へ]をクリック。
- 4 [職場のネットワークに接続する]を選択。
- 5 [次へ]をクリック。
- 6 [仮想プライベートネットワーク接続]を選択。
- 7 [次へ]をクリック。



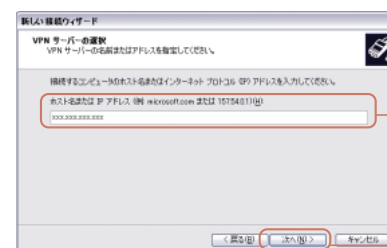
- 8 [会社名]に[VPN_PPTP]と入力する。
- 9 [次へ]をクリック。



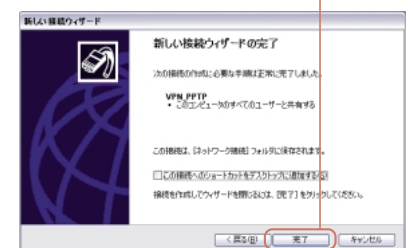
- 10 [最初の接続にダイヤルしない]または[次の最初の接続に自動的にダイヤルする]を選択。
- 11 [次へ]をクリック。



- 12 ネットボランチDNSサービスで取得したホストアドレスまたはネットボランチルーターのWAN側IPアドレスを入力する。
- 13 [次へ]をクリック。



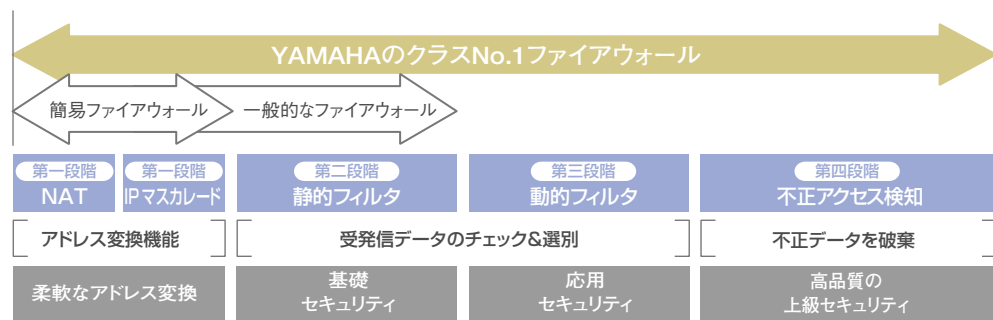
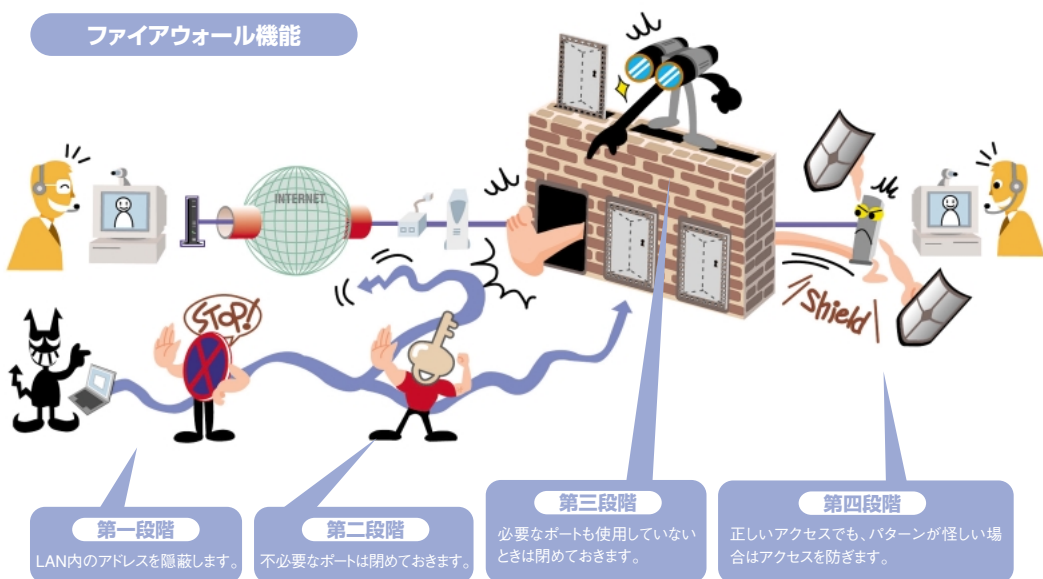
- 14 [完了]をクリック。



ファイアウォール 機能

ヤマハネットボランテールーターは①NAT、②IPマスカレード、③静的フィルタリング、④動的フィルタリング、⑤不正アクセス検知機能をサポートしています。これらの機能を使いインターネット上の悪意のある第三者からの不正なアクセスを防止します。^(※7) 企業用途においてはこれらの機能を満たすことが安全で安心なネットワーク構築には、必要不可欠と考えています。

VPN機能は通信するデータの暗号化と通信相手の認証を行うことにより、セキュリティを確保しますが、ファイアウォール機能は外部から社内LANへの不正なアクセスを防ぐことにより、セキュリティを確保します。この機能が不十分な場合、社内の重要なデータの破壊、データの持ち出し、データの改ざん、サーバ機能のダウン等の直接的な被害のほか、別の攻撃目標に対する踏み台となることもあります。被害者ではなく、間接的にも加害者になることで社会的な信用を損なう場合も有り得ます。不正アクセスは日々新しい攻撃方法が開発されるために、完全に防ぐことは不可能ですが、万全の対応策を図ることは企業として行うべき最低限のモラルと考えられます。



第一段階

NAT・IPマスカレード

NAT、IPマスカレードは、本来IPv4環境におけるIPアドレスの不足を補うことを目的とする機能です。ただ、セキュリティという観点から見れば、社内LANに接続されているパソコンのIPアドレスをインターネット上の悪意のある第三者から隠蔽する役割を果たします。

第二段階

静的フィルタリング

静的フィルタリングにより、通信相手を限定したり、通信するアプリケーションの種類を限定したりして、悪意のある第三者の侵入を防ぎます。

第三段階

動的フィルタリング

動的フィルタリングにより、さらに防御状態を堅固にします。社内LANからインターネットに送信したデータに対する応答データのみを社内LANに通すことにより、悪意のある第三者の侵入を防ぎます。この機能は、ステートフル・インスペクションとも呼ばれています。

第四段階

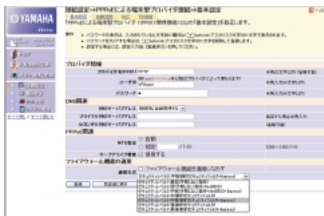
不正アクセス検知

一見、何の問題もないように見えるデータでも、悪意のある第三者から送られてくるデータの中身の実は不正データである場合があります。これまでの防御策では防ぎきれないこれらのデータは、**不正アクセス検知**により対処します。データの構造を解析したり、一つのデータだけでは、何の問題もないようなデータも連続して送られてくると悪意のあるデータと判断できるため、不正アクセス検知により、これらのデータを廃棄、またはメールやsyslog等で社内LANの管理者に警告を促します。^(※8)

※7 不正アクセスの完全な排除は不可能ですが、万全の備えは必要です。特に常時インターネット接続環境においては不正アクセスの脅威にさらされている時間が長くなるためによりいっそうの備えが必要です。ウイルスの侵入はこれらの機能では防止できません。ウイルス対策には別途ウイルス防止ソフトが必要です。

※8 完全な不正アクセスの防御、及びウイルスの防御はできません。

あらかじめ7つのセキュリティレベルから、自分の使いたいファイアウォールのレベルを選ぶことができます。専門知識がない方でもかんたんに設定変更が可能です。



・セキュリティレベル6または7を推奨します。

セキュリティ内容	セキュリティレベル						
	1	2	3	4	5	6	7
予期しない発呼を防ぐ。	●	●	●	●	●	●	●
NetBIOS等の通信を禁止する。 (ポート番号:135、137、138、139、445)				●	●	●	●
プライベートアドレスのままの通信を禁止する。					●	●	●
通常使用するアプリケーションの通信のみを許可する。					●	●	●
常時通信内容を監視する、より精緻で 強固なセキュリティ						●	●

VoIPもできる!

Step:8

ヤマハネットボランチルーターはインターネット電話 (VoIP) 機能をサポートしています。ブロードバンドインターネット接続環境があれば、ヤマハネットボランチルーターシリーズ同士で無料のインターネット電話が可能です。企業の拠点間を接続し内線電話感覚のように利用や通話料の多い特定の取引先との接続で、無料電話による大幅な通話料の削減が可能です。

ヤマハネットボランチルーターは、最近話題のインターネット電話 (IP電話) に対応しています。ネットボランチルーター同士のインターネット電話は加入しているプロバイダ^(※9)を選ばず、家庭用の電話機をそのまま利用することができ、プロバイダ接続料金以外の追加費用は不要です。また専用のIP電話機、またはIP電話用アダプタも不要です。通話音質は音声圧縮を行っていないため、非常に高音質な通話環境を実現しています。

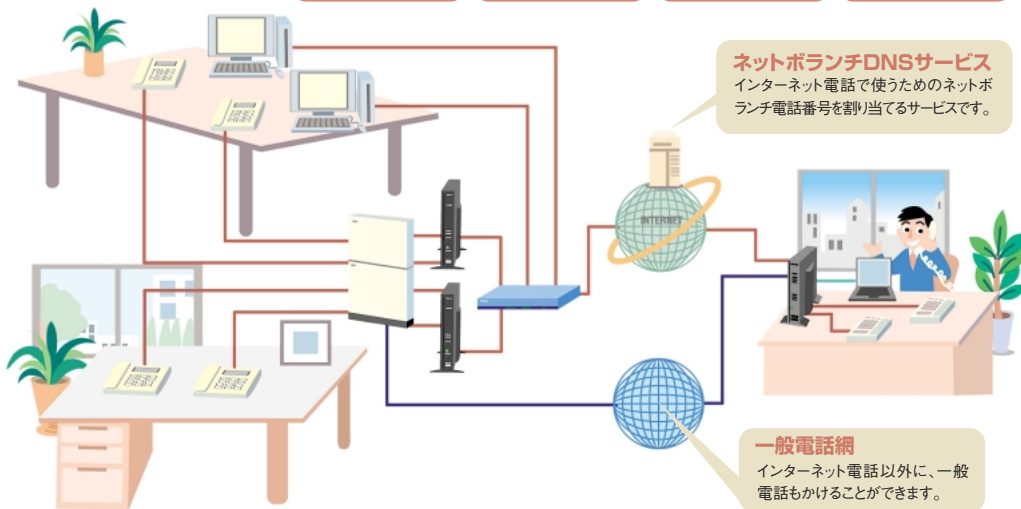
VoIP機能の特長

加入プロバイダを選ばない^(※10)

インターネット電話専用機や専用アダプターが不要^(※11)

完全無料

音声圧縮を行っていないため音質がクリア



その他の重要な ルーター機能

IPv6 機能

ヤマハネットボランチルーターは最近続々とサービスが開始されている新しいインターネットプロトコルであるIPv6^(※12)にいち早く対応したため、各社のサービスに採用されており、その稼働台数実績はNo.1と言えます。急速にIPv6社会が到来してもそのままお使いいただけます。

※9 インターネット電話はブロードバンドインターネット接続環境が必要です。

※10 一部CATVプロバイダ等、グローバルIPアドレスが割り当てられないプロバイダは利用できません。また、プライベートアドレスを割り当てるルータータイプのADSLモデムに接続して使用する場合も利用できません。固定IPアドレスが割り当てられない接続サービスでも利用可能です。双方にヤマハネットボランチルーターが必要ですが、Windows[®]Messenger ver. 搭載パソコンからはヤマハネットボランチルーターにつながっている電話機へかけることが可能です。

※11 PBXにつながる電話機等一部の電話機は接続できません。

※12 これまでのIPプロトコルは「IPv4 (Internet Protocol Version 4)」と呼ばれています。IPアドレスに32bitの番号を使っているため、最大で約43億台のコンピュータが接続できます。しかし、インターネットの普及とともに接続台数が急速に増え、IPアドレスが不足することが懸念され始めました。そこで登場したのがIPv6です。最大の変更点は、IPアドレスが128bitの番号に変更され、接続できるコンピュータの数が天文学的な量になるため将来的にはIT家電製品との接続が可能になります。また、セキュリティ機能や優先度を付けたデータ配信の機能がサポートされます。もちろん、IPv4とIPv6との相互接続も可能です。

ヤマハルーター導入事例

ヤマハルーターを実際に導入・運用している企業のご紹介をします。

匠技術研究所

ヤマハルーターを知り尽くした男が語る。

匠技術研究所 代表 谷山亮治

代表の谷山氏はルーター監視システムなどの開発に携わり、様々な種類のルーターを、そしてその運用時のメリットやデメリットを熟知している、いわばルーターソリューションの達人です。その谷山氏は「拡張性が高く安定したシステム構築を提案するには、ヤマハのルーターがなくてはならない。特にネットボランチルーターは、低価格であるにも関わらず多機能で故障がない。だからこそ安心してパートナー様に勧めることができます。」と話しています。



■ 使用機種 / RT56v・RTA50i・RTW65i・RT60w 各1台

VPN (PPTP) による二拠点ネットワーク

匠技術研究所では、川崎事務所と千葉事務所の二拠点を、Bフレッツ回線によるVPN (PPTP) (でネットワークを構築し、安価にそして簡単に、高セキュリティを確保した通信を実現しています。LAN、インターネットに関する設定は簡単に行うことができ、ファイアウォールの設定は過去の導入実績からデフォルトのまま利用しても問題がないとヤマハルーターを絶賛しています。また外出先からでも、モバイルPCでデータ通信が行えるように設定されています。



モバイルPCでデータ通信

無料インターネット電話 (VoIP) で通話料を削減

川崎事務所と千葉事務所での電話連絡に関しては、ネットボランチDNSサービスを用いて無料インターネット電話 (VoIP) で接続し、月間10時間もの通話料を削減しています。無料インターネット電話を使用するようになり、通話料を気にすることなく、データを確認しながら打ち合わせができると好評です。



VoIPで通話料大幅削減

ダイヤルインによるビジネスホンシステム

匠技術研究所ではダイヤルインを実に巧妙に使用し、自宅TEL、事務所TEL、事務所FAX、事務所特番の鳴分けをISDN一回線で実現しています。事務所特番はホスティング業務による受付用回線として設け、事務所を空けていても携帯電話へ転送されるように設定されています。携帯電話には事務所特番の電話番号が表示されるため、すぐにホスティングに関する連絡だと識別し、業務を円滑に行うことができます。

■ ヤマハルーターサイトでは、さらに詳しい内容をご紹介します。あわせてご参照ください。

<http://netvolante.jp/soho/document/index.html>



匠技術研究所

所在地 / 〒215-0002 神奈川県川崎市麻生区多摩美1-12-11
TEL / 044-959-5612
FAX / 044-959-5613
URL / <http://www.takumigiken.biz/>
事業内容 / コンサルティング・システム構築・ホスティング事業・アプリ開発・自社研究開発